

Sep. 1 (Sun.) / 09:00-10:00 / 共北 25 (267)

Invited lecture

The Fruit of Dragon Cherry

ドラゴン桜の未来

小林 ひろみ (元文教大学)

「ドラゴン桜」を初めて知ったのは、昨年の5月過ぎのことだったろうか。ダメ高校生を東大に入れる根性マンガのドラマ化の再放送だった。ウィークデーの午後に家にいることなどなかったが、熱血教師を演じる俳優はイケメンだし、時間もたっぷりある。原作も読んでみたいと思ったが、税別で514円X21巻。躊躇していたら、なんとバザーで全巻を格安で入手できた。

こんなトピックを学会で不謹慎、と怒られるかもしれない。しかしマンガは大切な日本文化だし、受験勉強も悪いことだと私は思っていない。どんな勉強でも、やみくもに暗記し詰め込む部分がある。そして、切羽詰まってやらざるを得ない受験はその機会となりうる。教師の授業法の工夫は必要だが、教える側の責任だけではなく学ぶ側の責任もある。英語の場合、語彙や英語の基本構造の知識などがひどく欠けているが、もう大学に入ってしまったからやらない、という学生をあまりに多く見てきた。切れない包丁でトマトを切るようなもので、中身はグチャグチャ、美味しくないから食いついてこない。

テレビドラマは全部見なかったが、マンガのほうは読破した。さすがにプロだ。東大受験をきちんと分析し、必要な科目の勉強方法もそつなく描いている、と思える。マンガだからこそ、思い込みや本音がもろに出ていて、これが日本全体に広がっている考え方だろうし、もしかすると政府の方針も多分にそうなのかもしれない。他の科目についてはよく分からないが、英語教師をやってきた身としては、これでは日本人は英語で負ける、反論を加えたいと、強く思うところがある。記憶力がよく多感な中学・高校時代に叩き込まれた手法は一生ひきずる。教員も自分の受けた教育から逃れることが難しい。ドラゴン桜はどうも樹齢も花の盛りも短いソメイヨシノらしい。実もほしいと私は思う。教師生活の集大成として、受験勉強とその将来を眺めなおしてみたい。

Day 3

Sep. 1 (Sun.) / 09:00-10:00 / 共北 26 (269)

Invited lecture

Trend Analysis of Research Published in the Journal of English for Academic Purposes (2002-2012): An Update

Youngkyu Kim (Ewha Womans University; KATE)

This presentation is based on a follow-up study of Sul, Ahn, Baek and Kim (2011), which reported a qualitative research synthesis of the studies published in the *Journal of English for Academic Purposes* (JEAP) from 2002 to 2010. Sul et al. (2011) was updated and expanded in the current study in that the research articles published in the JEAP in 2011 and 2012 were added to the analysis. A preliminary analysis of the results will be presented and the study's implications will be discussed with reference to EAP in the Korean context.